

## プーチンのワグネル作戦：チェス名人の非常に危険だが必要な心理作戦

<https://stateofthenation.co/?p=172937>

SOTN

June 25, 2023



プリゴジン（左）が、ロシア首相プーチンと、外国の学者やジャーナリストとの会食で、給仕を務めている。

2021年、Foreign Policy 報告が、*Wagner* という名前の起源はわからないと言った。他に、このグループの名前は、Utkin 自身のコールサイン *Wagner* からきており、これはドイツの作曲家リヒャルト・ワグナーに因んだもので、Utkin が「第3帝国」（ワグナーはヒトラーの好きな作曲家だった）への情熱から、自ら選んだものらしいと言う人がいる。そういうことから、彼はネオナチスだという人々があり、エコノミスト誌は、Utkin はいくつかナチスの刺青をしていると言っている。ワグネル集団のメンバーは、Utkin は Rodnover、すなわちスラヴの土俗信仰をもつ者だという。Radio Liberty はインサイダーを引用し、ワグネル・グループの指導精神はスラヴ土俗信仰で、現代の異教（多神教）新宗教運動だと主張している。2017年8月、トルコの新しい新聞 *Yeni Safak* は、Utkin はおそらくこの会社の代表者であって、ワグネルの頭目は誰か別の人だと言った。

ワグネルのいろんな要素が、白人至上主義やネオナチ極右思想と結びついていて、それはワグネルの公然と極右のネオナチ・ルシッチ軍に現れ、ワグネル隊員たちは戦場にネオナチの落書きを残している。しかし、Erica Gaston という国連大学政策研究センターのアドバイザーは、ワグナー集団はイデオロギーで動くのではなく、むしろ「ロシア安全保障国家」につながった傭兵のネットワークだと言っている。ロシアはその関係を否定していて、公的にそのような集団は存在しない。

## オッカムの剃刀：通常、最も単純な説明が最も正しい

冒頭の写真について、誰も高度に意図がある場合でなければ、(特にプーチンの食べ物や飲み物に関して) ロシア大統領 (首相) にこれほど近づくことはできない。そしてこの写真は 12 年近く前に撮られたもので、彼らの関係は少なくともそれだけ続いている。

キエフが 2014 年に、ドンバス地域のロシア語を話す人々に対し、組織的なジェノサイドを始めた後、プーチン大統領の代理者たちと、筋金入りの傭兵エフゲニー・プリゴジンはある計画を構想した。

この計画は、明かにナチの傭兵戦闘部隊に、さまざまなミッションを実行させることだった。ワグナー・グループがその目的のために直ちに形成され、それは母なるロシアのあらゆる方面から、あらゆる温度差のナチスを磁石のように引きつけるのに役立った。

いったんモスクワが、ウクライナで彼らの特殊軍事作戦を始めると、ワグナー・グループは意図的に利用されて、この戦争で、最も危険かつ恐ろしいミッションを達成させられた。

このようにして、ロシアのナチスは、ウクライナのナチスを無力化するのに利用され、これこそがウクライナ戦争を通じて、最も危険な戦場で起こったことである。

## 「これは人肉挽き機だ」——ロシア軍がバフムートを目にしたとき、戦闘の怒りが東ウクライナで起こった

要するに、これらの戦場のすべてが、戦争のどちら側によっても「肉挽き機」と呼ばれたのだ。

そこで計画の主眼は、あらゆる機会にクレムリンが明瞭にしているように、ウクライナ、特に東ウクライナの脱ナチ化と脱軍国主義化である

ワグナー・グループの目的そのものが、できるだけ多くのナチスとネオナチスを除去することだった。それはウクライナが、世界中からやってくるこの者たちの、メッカになってしまったからである。

## エフゲニー・プリゴジン、ハザールの二重スパイ

ここで事態が非常に面白くなってくる。

名人シェフ、エフゲニー・プリゴジンは偉大な料理人だったかもしれないが、彼はモスクワの GRU——ロシア軍事情報部——に多くいるような名人チェス・プレイヤーではなかった。

### ワグナー・グループ；ロシア軍事情報部の創設

<https://stateofthenation.co/?p=172942>

ロシア軍事情報部は常に、プリゴジンがハザールの二重スパイであることを知っていた。

しかし、チーム・プーチンがこれら最も重要な脱ナチ化と脱軍国主義化を、ウクライナにもロシアにも成功させた唯一の方法は、断固たるナチスをフロントマンに持つことだった。



エフゲニー・プリゴジン登場。

そもそもプリゴジンが、ロシア軍事体制を突き崩すことができると思ったことが、彼の精神の病がいかに進んでいたかを示すもので、これは硬化したナチスに典型的なものである。

彼が罹っていた精神の変調を理解するには、彼のツイートや公的な場での喚き方を見ればよい。

いったいどうして、ハザール陰謀団がこんなふうにプリゴジンを、プーチンに敵対させたのか？！ <https://stateofthenation.co/?p=172873>

常に公然と、弾薬や兵器や支給物をあのように要求または命令することは、モスクワの將軍たちが知っていた、彼の深い不信の特徴だった。

最後には彼は明確に、この不信が現実に根付いたものであることを証明した——それはGRUがはっきりと、ワグネル作戦が始まる前から確かめていたものだった。

言い換えると、チーム・プーチンは前から、プリゴジンが西側のさまざまな情報共同体と接触していたことを知っていた。彼はどこまでも飽くなきファシストとして、NATOの上部や、ペンタゴンやロンドンの主人たちと結んで働いていた。

結局、プリゴジンは彼の生涯を通じて、芯からの傭兵であり、したがって常に、彼のサービスを——**どんなサービスでも**——最高の値をつける人々に売りつける意図をもっており、究極的にそうしたのだった。

**キーポイント：**ヒトラーの「第三帝国」の元々のナチスは、実は、アシュケナージ・ナチ・ユダヤ人銀行家-起業家であり、陰からドイツを完全にコントロールしていた。ヒトラーを権力につけ、ホロコーストを仕組んだのは彼らであり、彼のために、ほとんどのヨーロッパのユダヤ人が「最終的解決」に脅迫され、現代イスラエル国に移り住んだのだった。プリゴジンは、この同じナチの生地から切り取られており、ハザールの共産主義者仲間とは鋭く対立している。彼らは両方ともマモン（金銭の神）の崇拝者で、この反乱の傭兵の引き金は、ロシア軍部が彼との契約を取り消し、すべてのワグネル傭兵を強制してロシア国軍に登録させたときに始まった。シェフのプリゴジンは、直ちに肉汁の旨味が終わったことを知った。

もちろんクレムリンは常に、プリゴジンが生きた人形の紐であることを知っていたが、彼らはそれを利用して、NATOのトップ高級軍人を混乱させた。それこそ二重スパイが果たす役目ではないのか？

プリゴジンは、ウクライナ戦争劇場のあらゆるミッションにおいて、クレムリンの信頼に応え続けるより方法がなかった。しかし同時に一方で、西側との接触を開拓し続ける義務があり、彼はそのようにした。

しかし GRU は、彼がウクライナを通じて、その側で取引していることを知っていた——時には CIA や MI-6 や MOSSAD を合法的に裏切ることもあり、また時にはロシアの資産を犯罪的に奪い取ることもあった。それは傭兵詐欺団が日常的にやっていることだ。

もちろん GRU は、プリゴジンがウクライナに足を踏み入れた瞬間に、やり始めたあらゆる行動を知っていた。それが彼らが、彼の多くの偽の要求を断った理由である。

## プリゴジンのヒ首 vs. プーチンのヒ首

ワグネル作戦の最終の結果がどうなったのか——それは、誰が誰を最初に刺すのかということである。

ロンドンの予想屋の答えは、プリゴジンがモスクワより遥かに先に「橋を焼く」というもので、危険なほどに辛抱強いプーチンが、彼のあからさまな不服従と歴然たる大逆によって、彼を除くより前に起こるというものだった。そして正確にその通りのことが起こった。

しかし、このブラック作戦のプーチンの側に、明かに巨大な「しわ」が生じた。

1. プリゴジンは、インターネットによって全世界と通信することを、いくらでも好きなだけ許されたのは、災難をもたらすことになる。クレムリンの特殊軍事作戦の隠れた正当化に対して、彼が与えた取り返しのできないダメージは、量り難い。
2. それ以上に破局的なのは、プリゴジンが与えられた、モスクワそのもののために、完全に公的な反乱を狙う自由である。この完全に予言可能な事の次第は、クレムリンのリーダーシップの正当化への信頼を、深く永遠に傷つけることになった。それは全く、決して起こってはいけなかったことで、そのカギとなる意思決定者は、AWOL（許可なしの欠席者）だった——**故意に!!!**——ことを確認する。

**正確にこれらの意思決定者は誰だったのだろうか？——プリゴジンに彼が持つべきでなかった地位を、長く持たせることを許した人物は？！**

この2つの歴史的現実（1と2）は、プーチン大統領、防衛長官セルゲイ・ショイグ、総参謀長ヴァレリー・ゲラシモフ、それに GRU（ロシア軍参謀情報部）が、プリゴジンによって、いかに悩んでいるかを証明する。

ロシアの軍事歴史上最大の屈辱は何か、ということを話している。お分かりか？

そして彼らが望みうる最上のものだったのは、このハザールに支配された結果である。誰でも、もしプリゴジン会社がモスクワに足を踏み入れていたとしたら、挽肉になっていたことは誰でも知っている… しかし彼の傭兵たちは、いずれにせよ、あまりにも近づきすぎた。クーデタ全体が、プリゴジンの頭で終わるべきだった——それがウクライナから出ていく前に。

結局のところ、ニューヨーク・タイムズというハザールの無頼漢でさえ、「アメリカは来るべき反乱を知っていた」と報道した。

---

## The New York Times

---

**LIVE** See more updates: [Russia-Ukraine War](#) 2h ago

### U.S. Suspected Prigozhin Was Preparing to Take Military Action Against Russia

The information was considered both solid and alarming because of the possibility that a major nuclear-armed rival of the United States could descend into chaos.

CIA と MI-6 と「モサド」が、完全にこの困った芝居の背景にいたことは、全く疑いはない。それはクレムリンが初めから、直接、自分たちが巻き込まれていることを知っていたのと同じである。

米情報部は、数日前からワグナー計画を知っていた——議会情報

<https://stateofthenation.co/?p=173039>

この「オッカムの剃刀」物語をさらに確かめるものは、プーチンのプリゴジンに対する狂った取引であり、それは彼をベラルーシに追放するが、すべての彼の刑事犯罪を不問に付するというものだった。

プリゴジン、平和と引き換えにベラルーシへ「追放」、刑事犯罪は不問：これはどういうことなのか？ <https://stateofthenation.co/?p=172914>

## [訳者 Greatchain 注]

先のスコット・リッターによる解説と基本は同じだが、こちらの方が詳しい。ロシアの、あるいは「亡命先」のベラルーシ（ルカシェンコ大統領）のプリゴジンへの処遇いかんによって、ロシア始まって以来の大問題になる可能性がある、SOTN は言っている。これは、ロシアとワグネル傭兵会社の共存の歴史がある以上、避けられないということはわかる気がする。しかし戦争のない世界の建設という大義によって、我々が動いている以上、小さな齟齬からほころびが生じ、すべてが崩れ去るといようなことは、ないはずである。ある国家は最初から「悪」なのだから、戦争をやめてはいけないという考えがどこかにあって、それが常識として我々を縛るなら、何も解決はしない。